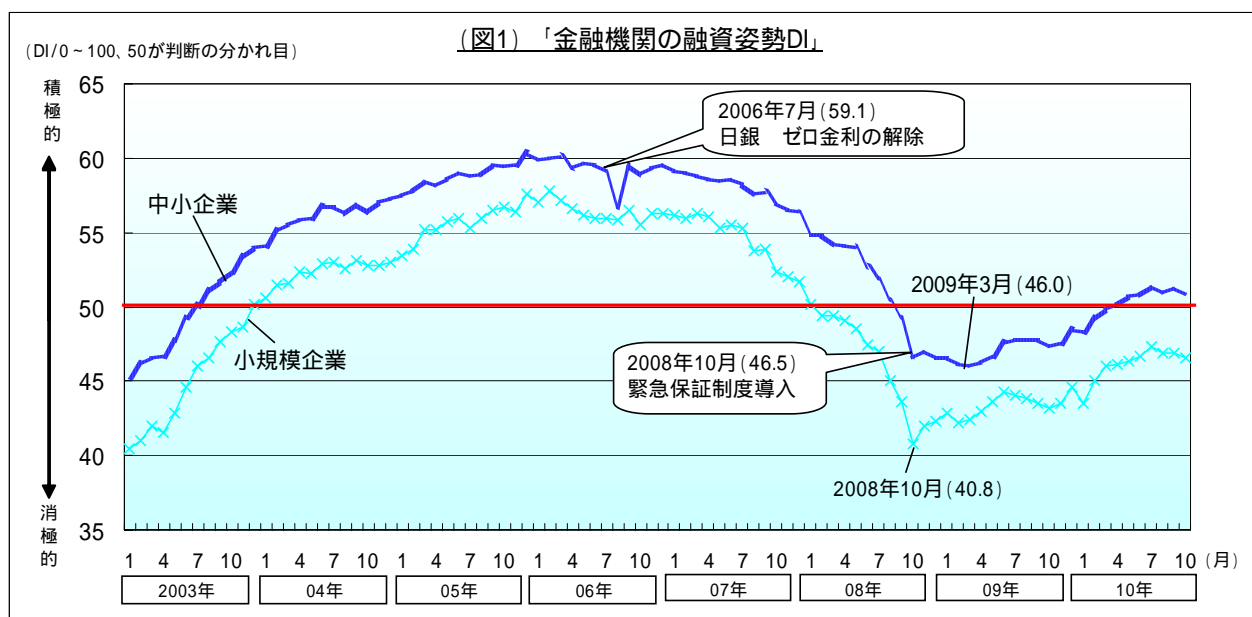


中小企業の金融機関の融資姿勢 DI

- ・金融機関の融資姿勢 DI は、中小企業は 2008 年 9 月に判断の分かれ目である 50 を下回る
- ・金融機関の融資姿勢 DI は、中小企業は 2009 年 3 月を底として緩やかに改善しているが 2010 年中盤からは一進一退で推移
- ・中小企業の景気 DI は 2009 年 2 月を底に改善傾向が続いたが、2010 年 8 月から 3 カ月連続で悪化し、中小企業の景況は再び厳しさを増しつつある

政府は「緊急保証制度」について 2011 年 3 月末の期限以後、再延長しない方針を決めた。緊急保証制度はリーマン・ショック直後の緊急景気対策で、融資額の全額を保証するものとして 2008 年 10 月から導入された。通常の信用保証制度は、中小企業が銀行から融資を受けるとき、保証料を支払って信用保証協会から融資額の 80% の保証を受ける仕組みで、借り手企業が経営破綻するなどして返済できなくなった場合、保証協会が企業に代わって金融機関に弁済する。景気回復の遅れにより、2010 年 3 月末までだった全額保証の期限は 1 年延長され、中小企業庁の速報によると 11 月 18 日までで件数が 129 万 6 件、利用額が 23 兆 2,388 億円に達しており、緊急保証制度によって金融機関から借り入れを行い、資金繰りを乗り切った企業は多い。

2011 年 4 月から従業員 20 人以下の零細企業（融資額の上限 1,250 万円）を除き、80% を保証する通常の制度に戻る。今後の中小企業の資金繰りが懸念されるが、金融機関の融資姿勢の現状はどうなっているのだろうか。TDB 景気動向調査の金融機関の融資姿勢 DI を用いて考察する。

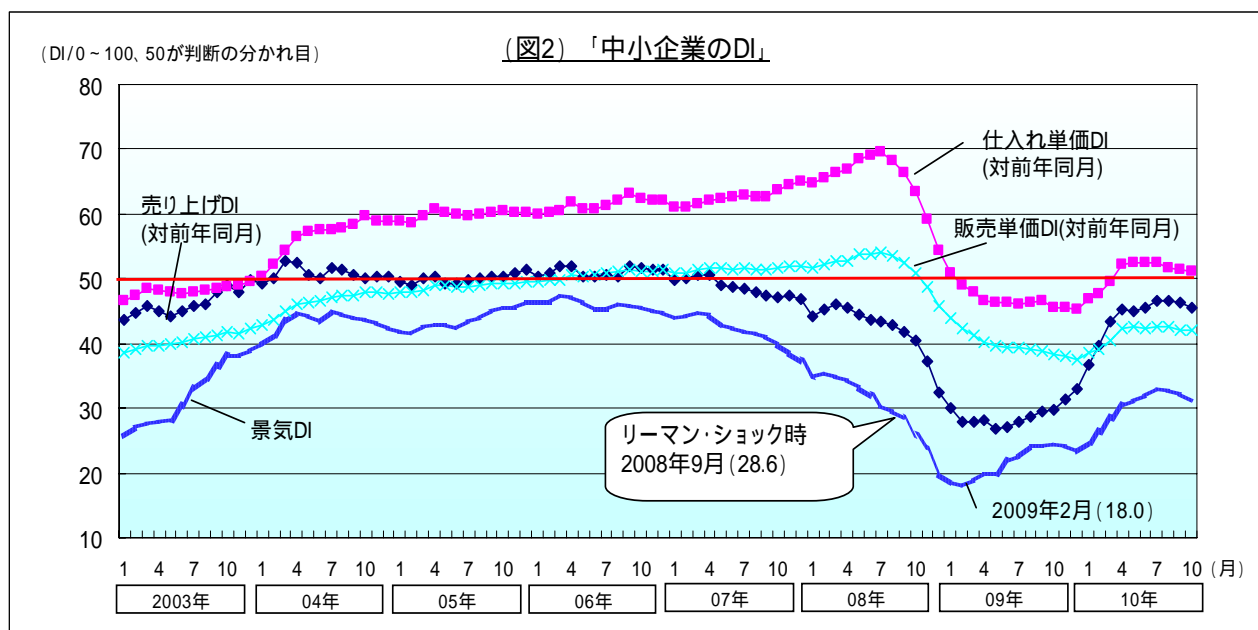


当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および無断引用を固く禁じます。

DI 分析レポート

TDB 景気動向調査 (URL : <http://tdb-di.com/>)

原材料価格の高騰、サブプライム問題や欧米の大手銀行の経営難の表面化などにより金融危機が一段と拡大したことに加え、リーマン・ショックをきっかけとして世界的に景気が後退したことで、金融機関の融資姿勢DIは2008年9月に判断の分かれ目である50を下回り、金融機関の融資姿勢は消極的となった(図1)。中小企業のうち、小規模企業は2008年2月に50を下回っている。その後中小企業は2009年3月(46.0)を底として緩やかに改善し、2010年4月に50を上回った。改善した理由には、外需のけん引や政府の消費刺激策の下支えで輸出企業を中心に景気が緩やかに回復したことや、2008年10月に緊急保証制度が実施され、中小企業の厳しい資金繰りを考慮し、2011年3月まで延長されたこと、2009年12月から中小企業金融円滑化法が施行されたことなどがある。小規模企業は2008年10月(40.8)を底に改善しているが、依然として50を下回っており、規模が小さいほど金融機関の融資姿勢は消極的である。2010年中盤からはともに一進一退での推移となっており、緊急保証制度の導入時よりは改善しているものの、回復は遅く、特に小規模企業への融資姿勢は厳しい。



緊急保障制度は打ち切られることになったが、中小企業の景況は改善したのだろうか。中小企業の景気DIは2009年2月(18.0)を底に改善傾向が続き2010年4月(30.4)にはリーマン・ショック時の水準(28.6)を超えたが、外需の失速や円高、消費刺激策の息切れやエコカー補助金の終了による反動減などにより2010年8月から3カ月連続で悪化し、踊り場局面となっている(図2)。また、売上げDI(対前年同月)も2カ月連続で悪化した。販売単価DI(対前年同月)も伸び悩んでいるが、仕入れ単価DI(対前年同月)は2010年4月から50

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および無断引用を固く禁じます。

DI 分析レポート

TDB 景気動向調査 (URL : <http://tdb-di.com/>)

を上回り、収益環境も厳しい。中小企業の景況は景気 DI が最低となった 2009 年 2 月よりは改善しているものの、再び厳しくなりつつあり、緊急保証制度が打ち切られれば、資金繰りの悪化による景況感のさらなる悪化も懸念される。また、経済環境の違いもあり単純比較はできないものの、1998 年 10 月に創設された特別保証制度が 2001 年 3 月に終了後 1 年目となる 2001 年度の倒産件数が戦後 2 番目に急増した経緯もあり、資金繰りの悪化により倒産が増加する可能性もある。

現在の中小企業の景況は先行き不透明感が高まっており、資金繰りが厳しくなると、景況感がさらに厳しくなる可能性もある。緊急保証制度を打ち切るならば、中小企業の支援体制の充実に加え、支援がなくても経営が安定するよう、2010 年度補正予算を有効に活用し、1 日も早く景気を回復させる必要がある。

(産業調査部 経済動向研究チーム K. S)